

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	関 寛人 (せき ひろと)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	学部過程 4 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 5 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 79 回日本栄養・食料学会大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	○関寛人、稲田陽和、箕西あかり、久原麻那、上村美優、李佳馨、梅子豪、謝堃、板倉英祐、山本林、丸亀裕貴、矢野敏史、原太一
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	カロテノイドのオートファジーフラックスに与える影響とその感知機構の解析
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。) 野菜や果物に含まれるカロテノイドは、抗酸化作用や抗炎症作用といった生体調節機能が知られているが、オートファジーへの影響は未だ十分に解明されていない。従来のカロテノイドに関する研究では、オートファジーの分解量(オートファジーフラックス)の定量的な評価がなされておらず、カロテノイドがオートファジー制御に与える具体的な影響に関するデータは現時点では十分に確立されていない。また、細胞内でのカロテノイドの感知機構も不明である。本研究では、カロテノイドを対象に、オートファジーフラックス測定プローブを用いて定量的な解析を行った。また、カロテノイドの感知システムと細胞応答の関係を解明することを目的とした。本学会において、カロテノイドのオートファジー活性評価によりオートファジーフラックスの定量的な評価の重要性を示し、カロテノイドの機能性に関して感知機構の観点から議論することができたと考えている。	

※無断転載禁止